

いばかほか新聞

2010・5
Vol. 17

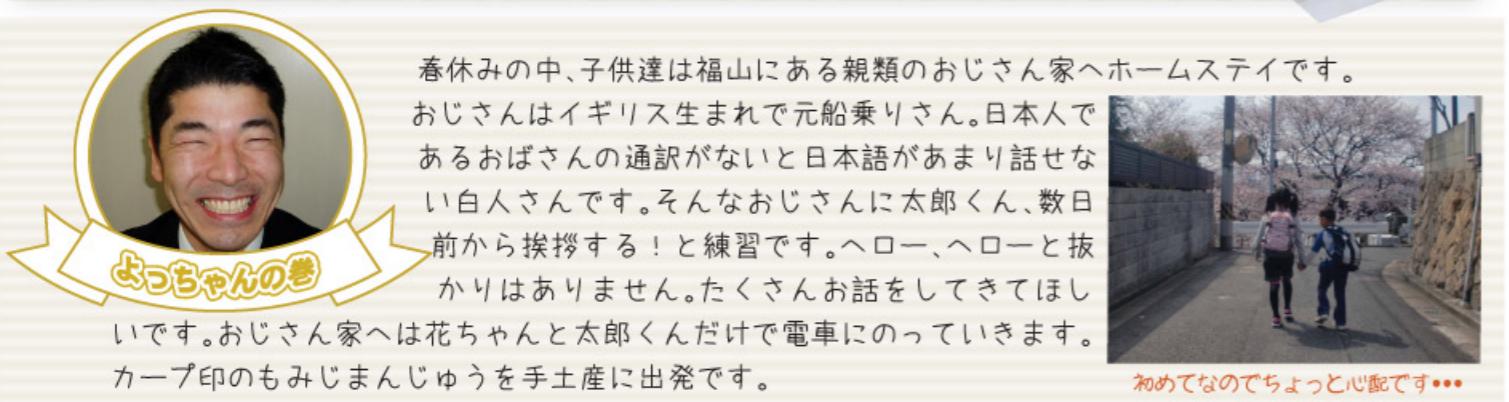


工務の伊藤です

暖かくなったので昨年11月で停止していた魚釣りを再開しました。今回も家内をつれてのファミリーフィッシングです。前回、江田島の切串港でメバル釣りをしましたが、小さい物しかつれなかつたので、メバルの成長を期待して同じ場所をねらってみました。車で移動途中に釣り具店で見たメバルの釣り情報が好調なので期待はさらに高まりました。しかし釣り初めてみるとさっぱり。ハリスや針を小さくし、5時間もねばってやっと小さいメバルが10匹程度。あまりにもつれないで、小さい物でも全て持ち帰り、唐揚げにして胃袋へ。

よっちゃんの巻

春休みの中、子供達は福山にある親類のおじさん家へホームステイです。おじさんはイギリス生まれで元船乗りさん。日本人であるおばさんの通訳がないと日本語があまり話せない白人さんです。そんなおじさんに太郎くん、数日前から挨拶する！と練習です。ヘロー、ヘローと抜かりはありません。たくさんお話をしてくれてほしいです。おじさん家へは花ちゃんと太郎くんだけで電車にのっていきます。カープ印のもみじまんじゅうを手土産に出発です。



桃栗三年、柿八年

「父ちゃんだけいいな～」と息子に言われつつ、結局父親だけで友人達と平和公園の夜桜を楽しんでしまった中組です。

先日、焼山のガーデンセンターへ桜の木を買いに行きました。種類が多く、したれもいいな」と悩んでいると、裏側へ柿の木「次郎」がありました。実家には柿次郎と呼ぶ柿の木があります。

秋には沢山実がなります。種が無くおいしい柿です。柿次郎のおかげで風邪をひきにくくなっています。悩んだ結果、秋の味覚の勝利という事で「次郎」を購入しました。八年を覚悟していましたが、挿し木のため三年程度で実がなるかも？植えたばかりですが大きく根をはり、沢山実をつけてくれるといいなと思っています。楽しみです。

安佐南区A様よりうれしいお声を頂きました。

FAX

床暖房の専門業者としてお客様の期待に添えるよう提案や情報発信をしていきます。本当に励みになります。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

営業技術グループ 中組彈輔

昨年11月に自宅を寒冷対策にて改築しました。そのひとつとして、貴社の床暖房を導入しましたが、想像以上に温く快適にこの冬を過ごすことができました。

この好結果は、今回のニュースレターに記載されており、床暖房のものの性能が良いとはもちろんですが、壁、天井、窓、床下の断熱工事に万全を期したおかげだなと思っております。同様に記事を読ませて頂きました。

専門知識に弱い消費者に参考になるような記事をこれからも情報発信していく下さい。期待しています。

いつもお世話になります。

今年の目標で1週間に1冊本を読むと決め、がんばって実践しているサン・フロアホームの東です。

コミュニケーションで大切な良い言葉を見つけたので紹介します。

この世の中すべての問題は「みとめる」ことをすればすべてがうまくいくと思っています。なぜなら人は、認められたくて生まれてきたから。「誰かに認められたくて、必要とされたくて生きている」全ての人は自分の存在意義を確かるために生きている。だから自分の存在を否定され、「みとめ」られている実感がないとき否定的な行動をしたり自ら命を断つ行為をしてしまうんです。

子供が非行に走ったり、引きこもったりするのは親に「もっと僕を認めて！」というメッセージ。

友人や恋人が、わざわざ腹を立つことを言うのは「もっと私を認めて欲しい！」というメッセージ。

上司が理不尽な要求をするのは「言うことを聞いて、上司としてもっと認めてくれ」というメッセージ。

部下が自信をもって行動できないのは今まで認められる回数が少なかつたら「僕のことをもっと認めてほしい」というメッセージ。

これらのメッセージすべては、本人も気づいていない潜在的なメッセージ。では、どうすればそんな彼らと上手く付き合えるようになるのか？

その答えは「みとめ」されることを求めているのだから「みとめ」てあげればいいんです。「オレは必要とされているんだ！」そう思えると生きるエネルギーが湧いてくるんです。

しかし、そうはいっても「認め」られない人もいます。価値観や考え方があまり違う人を心の底から認めることなんてできません。そんなときは、認めることをしなくともいい。「見とめる(=受けとめる)」だけでいい。「見とめる」をやり続けることで「認める(=受け入れる)」ことができるようになるからです。

「認める」をやり続けると今度は「皆豊める(=受け入れ合う)」という最高の関係を築くことができます。「見とめる」→「認める」→「皆豊める」(受けとめる)→(受け入れる)→(受け入れ合う)これを「みとめの3原則」(MITOME 3)と呼びます。

この「みとめの3原則」当たり前のことだけど実践は難しいですね。もう一度「見とめる」から実践していきます。